

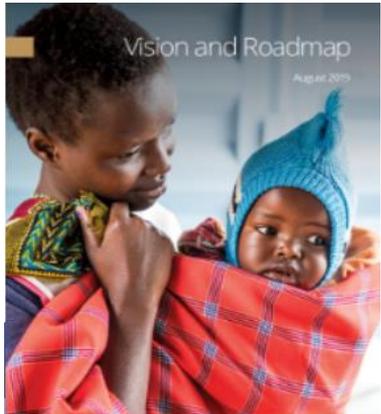
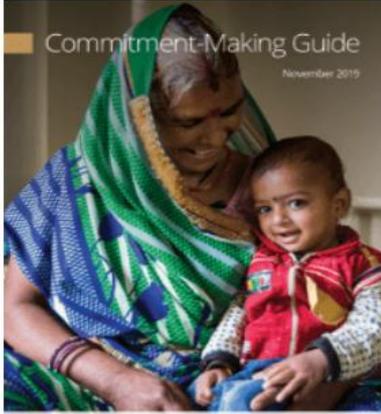
NJPPPセミナー
2020年7月30日

東京栄養サミット —企業の参画について—

外務省
国際協力局 国際保健政策室
稲岡 恵美

※ 本資料は、東京栄養サミット2020に向けて皆様の御理解が進むよう、一部内容について演者の見解を踏まえた記載としています。あらかじめ御了承ください。

開催概要

日程	2021年12月中旬(2日間)	
主催	日本政府	
場所	東京都内	
想定する 会議規模	500人程度 (首脳級及び閣僚級を含む各国政府ハイレベル, 国際機関, 学術機関, 市民社会, 民間セクター等)	
目的	世界の栄養改善の進捗及び課題を確認し, 課題解決に向けた 2020年以降のコミットメントを宣言文(コンパクト)にまとめる。	
想定される 成果	<ul style="list-style-type: none">・成果文書 (健康, フードシステム, 強靱性, 説明責任, 財政)・我が国の栄養に対する国内外 の取組の発信 (国民健康・栄養調査, 学校給食, 栄養士, 食育, 健康経営等)	 

栄養サミットを通じた企業価値の向上

企業の社会的責任に対する関心が更に高まり、SDGsの貢献及び説明責任が問われており、国際的な要請を踏まえないことは企業経営にリスクとなり、栄養課題への戦略的な取組は企業の価値向上のチャンスとなる。

→ 東京栄養サミットの活用

- 企業の社会的責任への要請
- 食品産業の企業評価の進展（例：Access to nutrition index：
①ガバナンス、②商品、③アクセス、④マーケティング、⑤表示他）
- 投資家の関心（SDGs・ESG投資）
- 変化するニーズに沿って健康的な食を提供するビジネス・チャンス
- 増加する人口の食市場争奪戦

民間セクターの栄養分野取組(案)

- 栄養強化食品の拡大: 価格上昇を伴わない栄養強化, 食塩・脂肪減食品の拡大等
- 乳児・思春期・女性の栄養補充食: 栄養教育やプログラムのデザイン
- 職場における栄養改善: 職場環境整備(社食, 栄養教育, 健診, 母乳育児支援等)
- 高栄養食品の需要形成: 健康的な食事キャンペーン等, 消費者の意識と行動変容。
- 収穫後栄養損失への取組: 企業間取引の工夫による収穫後の貯蓄及び輸送の段階における栄養価の高い食品の損失を削減。関連企業に対する技術支援・資金援助。
- 健康的な食品へのアクセス向上: インフラへ投資, 農家に対する市場情報他
- 革新的資金調達: 財政機関と連携した拡大。
- 都市の課題: フード・バリューチェーンの都市化に対応するプログラム開発

ビジネス・コミットメントの例

テーマ1. 健康: 栄養の保健サービス(UHC)への統合

インド乳製品協同組合: インド国内外における重度栄養不良の治療のため、高品質、低価格のRUTFへのアクセスを拡大することにコミットする。治療にかかる費用を削減し、栄養不良対策食品の国際市場での競争力を上昇させる。

テーマ2. 食: 健康的で持続可能なフード・システムの構築

味の素: 2016年末迄に約20万人の離乳中の子どもたち他にココプラスを届ける。また、持続可能なビジネスモデルを実現する。

ユニリーバ: 従業員のための健康リスクアセスメントと教育・行動変容に焦点を当てたプログラムを開発し(母乳育児を行う母親の支援を含む)導入する。

テーマ3 強靱性: 脆弱な状況下における栄養不良対策

脆弱な地域において、栄養価の高い食品の生産・アクセス・入手可能性・需要・消費の改善を目指したイノベーションと専門知識のための機会を拡大させる。

テーマ4 財政: 栄養改善のための財源確保

疾病負荷が高く、資源の限られた国における投資の加速化を触媒するために、新たな触媒的資金調達の方法及び既存の革新的資金調達メカニズム(Power of Nutrition等)の構築について検討する。